

孤独孤立ホットラインから見たもの



マスコットキャラクター“ビーのん”
よろしくね！！



社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会 勝部麗子



コミュニティソーシャルワーカーが支える住民主体の地域活動(大阪府豊中市)

自治体概要※

人口 400,741

面積 36.60km²

小学校数* 41

中学校数* 18

※2021年4月1日現在

*市立のみ

- 小学校区ごとに設置した「校区福祉委員会」(地域住民が活動の中心)において、ごみ屋敷など、なんでも相談を通じて把握した課題を地域住民とともに解決を図る。
- 社会福祉協議会(生活困窮者自立支援制度の自立相談支援の委託も受ける)のCSW(コミュニティソーシャルワーカー)が、専門的観点からサポート。

住民に身近な地域での取組

◎校区福祉委員会

- 小学校区ごとに設置された自主ボランティア組織
- 校区内の福祉問題を解決するために、地域の各種組織の協力を得て活動
- 配食サービス、ミニデイサービス、サロン事業、ボランティアの育成・登録等を実施



豊中あぐり

◎豊中あぐり(新たな担い手の育成)

- 都市型農園を拠点に、人の交流と社会参加を促進(中高年男性中心)し、地域福祉の担い手づくりを目指す

◎福祉なんでも相談窓口(地域福祉の活動拠点)

- ボランティア(校区福祉委員、民生・児童委員)がどのような相談でも受け止める。

◎CSW(コミュニティソーシャルワーカー)

- 市社会福祉協議会のCSWが専門的観点から住民活動をサポート
- 住民と協働しながら、地域のニーズを把握
- 必要に応じて、関係機関や広域のネットワーク会議等につなぐ



住民・専門職によるアウトリーチ
(ローラー作戦)

市レベルでの取組

地域包括ケアシステム推進総合会議 (市全域)

- 多分野の相談支援機関の課題共有、しくみづくりの場

高齢

障害

子育て

医療

生活困窮

民生・児童委員
校区福祉委員

警察

消防

コミュニティ
ソーシャルワーカー

連携

連携

地域福祉ネットワーク会議 (日常生活圏域：市内7地域) 【高齢部会・障害部会・子ども部会】

- 専門職、高齢・障害・児童の施設事業所、地域住民、民生委員・児童委員などが参加
- ワークショップなどを通じた課題共有・地域連携の場

地域共生社会への新たなステージ

- ・一人も取りこぼさない ……SOSを出せない人に届く
 - ・排除から包摂へ ……総論賛成各論賛成へ
 - ・支えられた人が支える人に
 - ・全ての人に居場所と役割を
- 徹底した本人尊重と力が発揮できる社会づくり

…それを支えるための丸ごと

断らない福祉

多機関協働

…福祉が町おこし

…社会的孤立への対応



1,豊中市社会福祉協議会のCSWの取り組み 2004年から地域福祉計画に位置付け

- ①制度の狭間から地域づくりへ
- ②住民と協働するワーカー
- ③ライフセーフティネットの仕組み
- ④プロジェクト会議(出口づくり)

総論賛成各論賛成 排除しない地域づくり

→ 個の課題から地域づくりを考える

ゴミ屋敷・子供の貧困・ひきこもり・8050

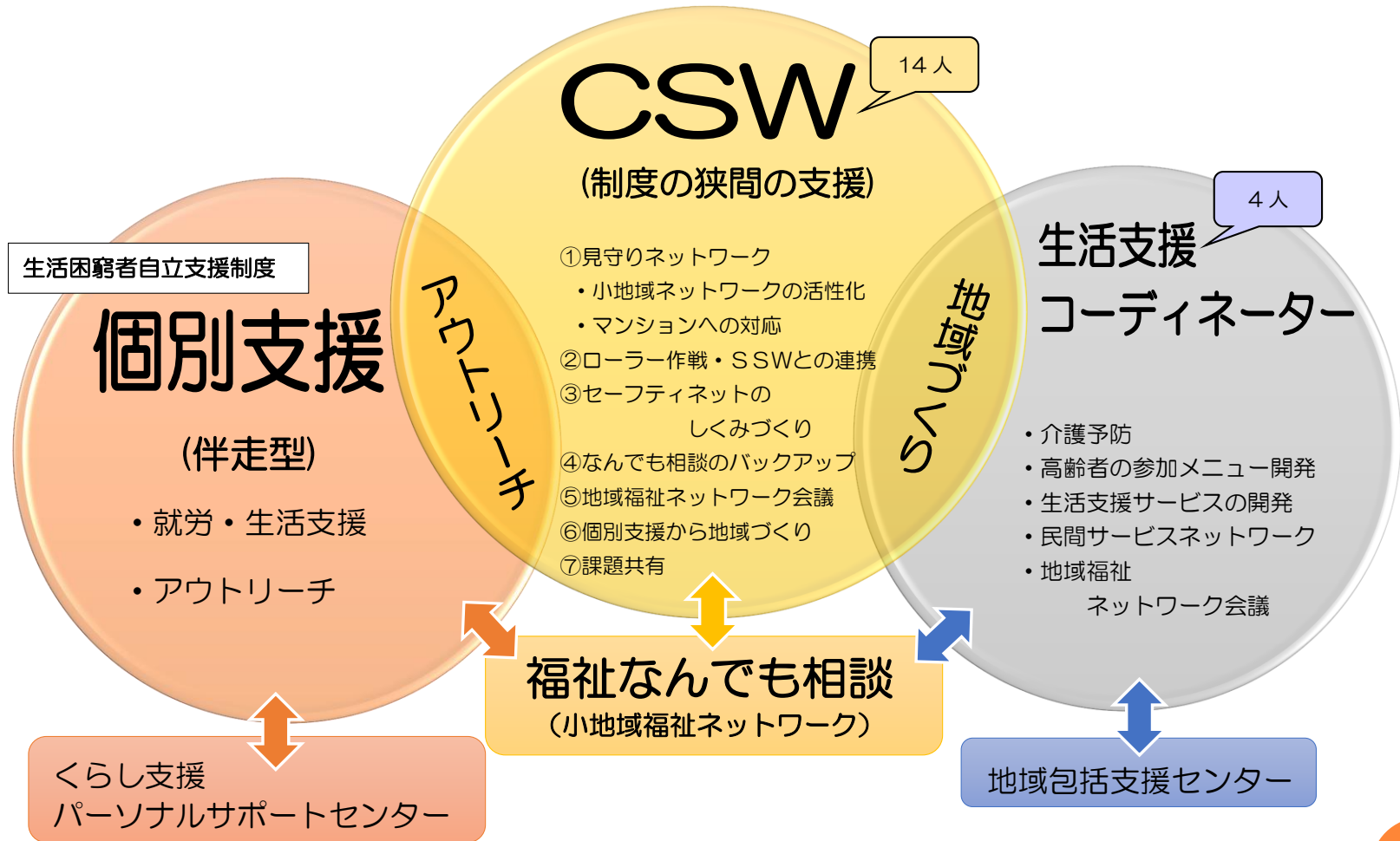
アルコール依存・刑余者などなど

社会的孤立へのアプローチ

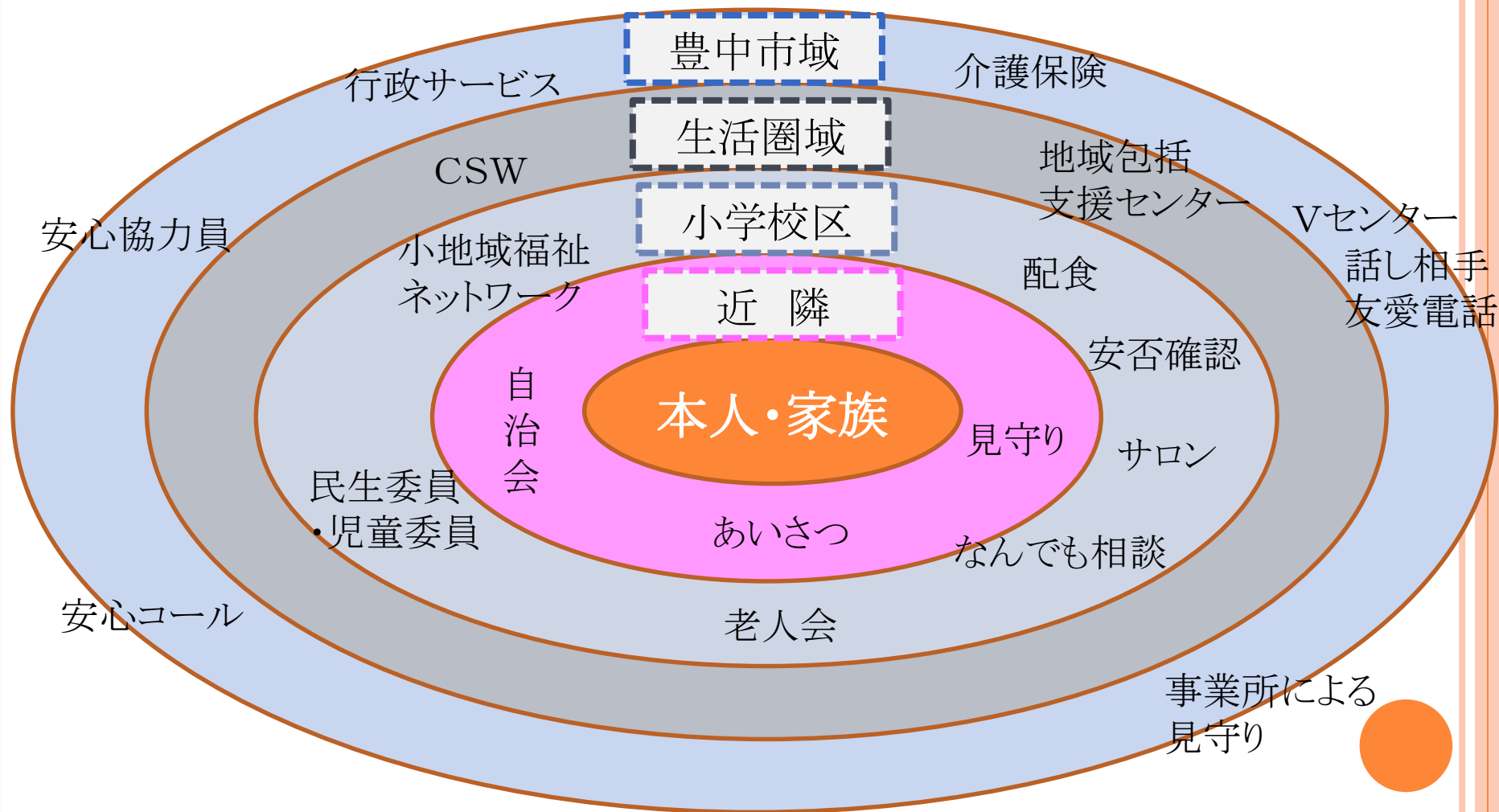


【地域福祉推進専門職の役割】

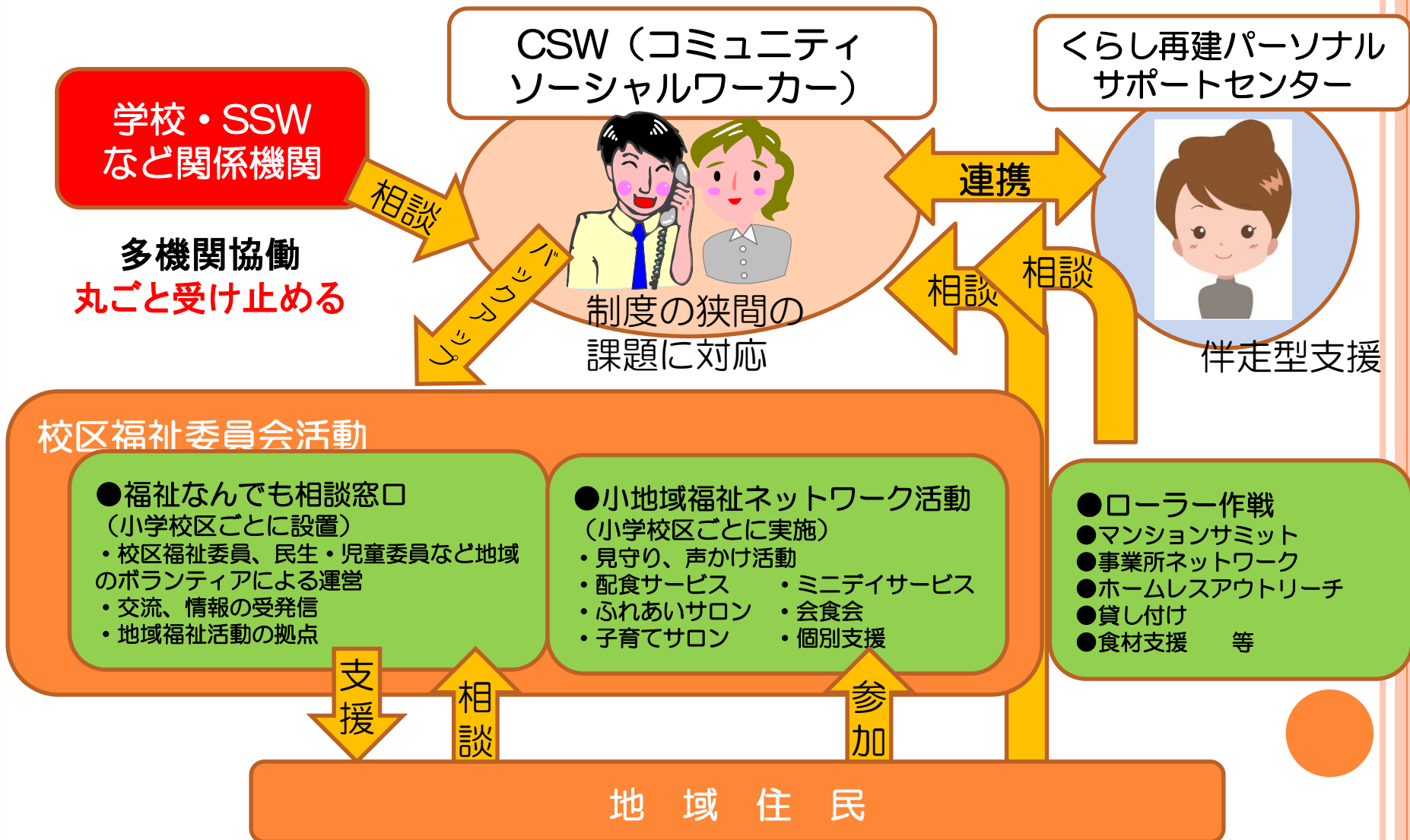
豊中社協(案)



2,豊中における重層的な見守りの方法



豊中市社会福祉協議会の取り組み



2, 一人も取りこぼさない

早期発見・アウトリーチの必要性

- ① 措置から契約へ福祉制度が大きく変化したことに伴い
SOSを出せない人、サービス拒否者は繋がらない
- ② 本当に困っている人はなかなか制度に結び付かない



A 民生委員・校区福祉委員による早期発見

見守り、声掛け、福祉なんでも相談

B 住民による見守りローラー作戦

民生委員、福祉委員、地域包括支援センター、CSW

C 多機関との連携による早期発見

生活困窮者・社会的孤立者の早期発見のための検討会議

行政の滞納状況・SSW・病院などとの連携

D マンションサミット交流会

E コロナ特例貸付 外国人・

F 路上生活者などへのアウトリーチ



校区福祉委員会活動

- 福祉なんでも相談窓口（小学校区ごとに設置）
- ・身近な福祉相談の実施と専門機関への取次ぎ
 - ・地域住民が集う、交流ふれ合いの拠点
 - ・福祉サービスに関する情報、ボランティア情報、地域福祉活動情報の受発信
 - ・概ね週1回、2時間開設



高齢者等見守りネットワーク

緊急時の対応の仕組み



一人も取りこぼさない①

ローラー作戦 年間4000軒 見守りマップ作り

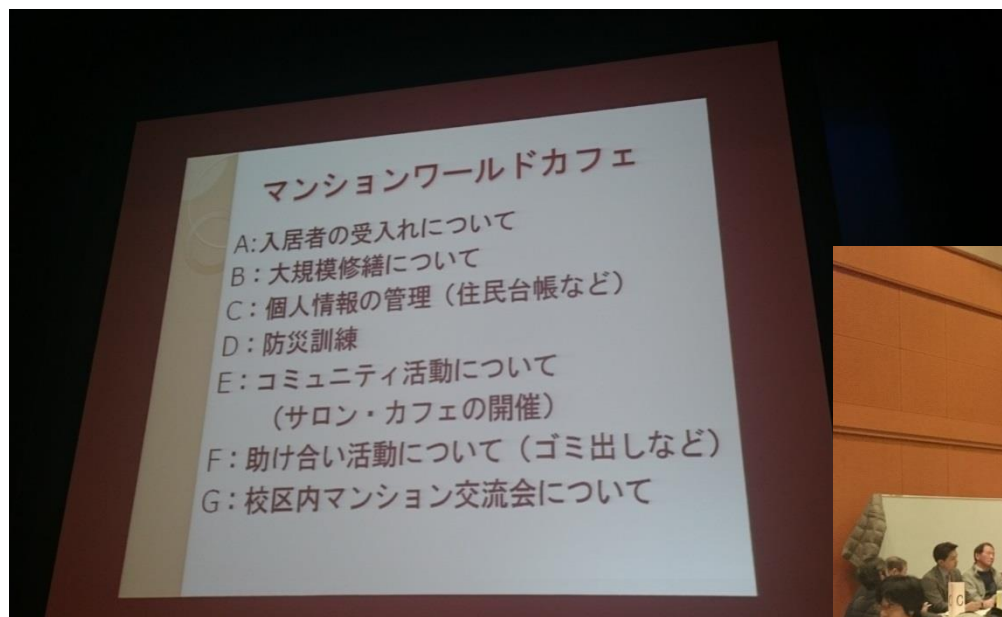


■	気になる人
■	学校・施設
□	空家
■	現在だけ空家(入院・入所など)
●	民生児童委員
●	福祉委員・助け合いメンバー
●	ボランティアしてくれそうな人
○	まほろば会員
●	一人暮らし
●	障がいのある人
●	お弁当の配食
●	高齢者



一人も取りこぼさない②

マンションサミット・マンション交流会



4,豊中の生活困窮者支援

生活困窮者支援緊急支援

- ▶ 貸付、日常生活自立支援、なんでも相談、資源ごみ持ち去り禁止条例との連携、学校などからの生活困窮者の伴走支援→CSWへ

(緊急対応、多重債務整理、年金手続き、住宅探し、制度利用、就労支援等)

- ▶ 善意銀行の生活困窮者貸付
- ▶ 民生委員助け合い資金
- ▶ 物品提供(衣類、食糧、リユース)
- ▶ 施設 社会貢献費用との連携
- ▶ 住替え支援
- ▶ 食材支援 フードドライブ



○外国人向けコロナなんでも相談会を 社協・市・国際交流センターで共催 (重層的支援体制整備を目指す包括支援プロジェクト)



R2.11.26

生活相談と食材支援
(20世帯分)などを実施

※多分野の窓口で暮らし
再建を支援する「暮らしを
守る総合相談会」も協働
実施

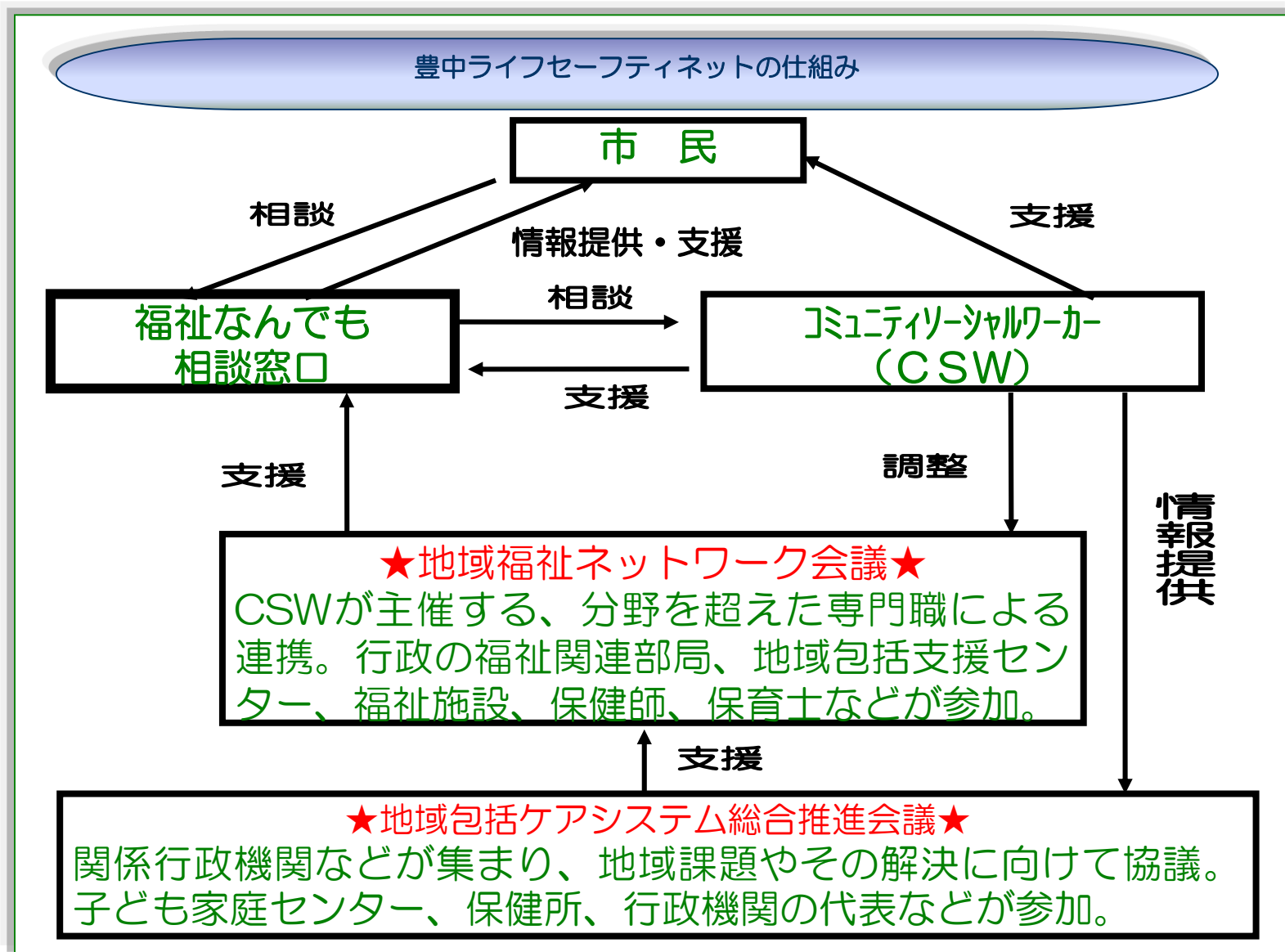
R2.12.6くらしかん(14名)

R3.3.7しごとセンター(21
名)

家を失った人が増えている 早朝からのアウトリーチ



3,丸ごと・多機関協働



コミュニティソーシャルワーカーの 取り組み

相談者

本人・地域住民・民生委員など
関係機関職員
行政担当課、保育所・施設など
福祉なんでも相談窓口

相談

CSW

調整

問題解決

公民による支援のコーディネート
行政制度でサポート
ボランティアによる支援
校区活動による支援
困難事例についてはケース検討会



大阪府の定めるCSW
養成講座を修了しています



コミュニティソーシャルワーカー(CSW)の役割は？

●福祉なんでも相談窓口のバックアップ

- ・社会的援護を要する人々への対応
- ・複数機関の連携による支援が必要なケース
- ・公民協働でのサポートが必要なケース
- ・地域との関係調整が必要なケース

●地域福祉ネットワーク会議の運営

- 地域福祉計画の支援
- セーフティネットの体制づくり
- 要援護者に対する見守り・相談

コミュニティソーシャルワーカーの取り組み 個別支援から仕組みづくり

- 福祉ゴミ処理プロジェクト
大量ごみの処理についてのルール化を図る
- 徘徊SOSメールプロジェクト
- 各種交流会の開催 同じ立場の介護者をつなぐ
 - 高次脳機能障害者家族交流会&自主グループ化
 - 広汎性発達障害者の家族交流会&自主グループ化
 - 男性家族介護者・若い家族介護者の交流会
- 子ども食堂
- 豊中あぐり
- 引きこもりの居場所づくり ビーの×マルシェ
- 内職広場・道端の駅
- 福祉便利屋
- フードドライブ
- 8カ国語の地域福祉ガイドの作成



重層的支援体制整備での新たな地域づくり①

- ① 学校と福祉の連携プロジェクト
 - プロジェクト会議設置
 - 教職員のための連携ガイド作成
 - 全校訪問 主任児童委員と一緒に
 - 食のアウトリーチ
 - 文化的活動への誘い
 - エンゼルヘルパーの実験
 - 学習支援・子ども食堂づくり



二つのアウトリーチ

- ・問題解決型のアウトリーチ

→本人に困り感がない場合支援拒否となる
問題解決が終息すると訪問できない

- ・見守り型のアウトリーチ

→本人にとって見守りなのか監視なのか



コロナで生まれた

本人にとって必然性があり喜ばれるアウトリーチ

- ・食材支援
- ・宅食 手作りの栄養価の高いお弁当
- ・学習支援
- ・体験活動への案内



社会福祉法人あいわ会と協働でこども宅食 をスタート 支援中の125世帯に配食



愛情たっぷりのお弁当



子ども食堂は屋外野菜収穫体験に...向かい 合わずに スイカを食べます



豊中あぐり岡町菜園で野菜収穫体験・ あぐりパークでの芋ほり（社協）



外国人親子も参加 あぐりのメンバーから教えてもらいながら収穫



わいわい子ども食堂は大学生ボランティアと学習支援に形を変えて



れんげまつり

宅食・外国ルーツのある子・定年後の男性・オレンジカフェのメンバー



地域での学習支援の場づくり



重層的支援体制整備での新たな地域づくり②

②外国人支援と福祉の連携プロジェクト

プロジェクト会議設置

食材支援(技能実習生・夜間中学・大人食堂)

食材支援付きなんでも相談会

アンケート調査

バザー

フットサル交流会

見守り訪問



豊中社協独自のフードバンク 困窮世帯など18000世帯に



○継続した食材支援(社協)



↑コロナで影響を受けている夜間中学の学生さんを応援。生徒には外国人の方も多く今後も連携して支援。

* 地域共生フォーラム(全体テーマ)で夜間中学が題材の映画「学校」上映会を企画中(1/21予定)



↑技能実習生のみなさんにお届け
次回はフットサルを通じて交流予定(12/3)



市社協と社会福祉施設連絡会が共催で おとな食堂を開催予定

- 外国人限定ではなく、コロナ禍で困られる方やひとり親家庭も対象。
- お弁当のテイクアウトと食材配布を実施し、生活相談があればその場で市社協職員が対応する。
- 国際交流協会の協力でやさしい日本語版のチラシを作成いただき、啓発も依頼。外国人技能実習生の入国後講習を行う研修施設であるマルインターナショナルにも情報提供。



今回の孤立孤独ホットラインの相談の取り組みで感じたこと

- 公的な相談機関が休む時の不安な課題
- 支援を目的とする相談窓口と寄り添うことを目的とする窓口
- 全国ネットの社会福祉協議会の役割
- 話せる相手が24時間いる相談の役割
- 無料であること
- 全国の相談支援者が一緒に行う意義
 - 普段からの連携の必要性

